

懐かしい未来へ

るもいの未来図

[第5次留萌市総合計画]



基本構想 2007-2016

留 萌 市

はじめに

誇り高く、満足できる暮らしを求めて

明治維新から今日まで、我が国は中央官庁を軸とした経済社会構造を築き、「欧米に追いつき、追い越せ」という目標のもと国民が一丸となってがんばった結果、経済大国と言われるようになり、わたしたちは「豊かな生活」を手に入れることができました。

しかし、その一方で、身近な自然や農地を失い、車中心の個性のない都市が生まれ、経済的な豊かさ以外には「幸せ」を測るモノサシを持たない、モノはあるけれど、心が満たされない社会になってしまったような気がします。

自然は子どもたちが笑顔で暮らし、心や体の成長に欠かせないものです。農地は食の源であり、水を蓄え、自然を守り、地域に潤いを与えてくれます。車中心の社会は、社会的なコストが大きく、環境にも大きな負荷を与え、高齢者、子どもには優しくない都市を作っています。そうして、わたしたちは時間の経過とともに、ふるさとの景色や地域への愛着ばかりが、地域の歴史や文化をも失おうとしています。

世界では、自然や限りある資源、地域の歴史と文化を守りながら、心豊かに暮らすため、美しく持続可能なまちづくりが進んでいます。都市の無秩序な拡大を抑え、持続可能で、人と人とのふれあいのあるまちを目指す動きです。

それをアメリカでは「スマート・グロース」(賢い成長)と言い、ヨーロッパでは「コンパクトシティ」と言っています。

わたしたちは、今、人口減少と経済の縮小に備えて、心豊かに住み続けるための発想の転換が必要です。

この第5次総合計画～基本構想～で描く留萌の未来像は、決して斬新で、夢のふくらむものではありません。むしろ、家族がひとつになり、人々が温かなきずなで結ばれていた時代。人と自然が共存し、地域の歴史や文化を大切にし、安全で安心な食べ物を口にできた暮らし。そうした時代の経済的には豊かではなかったけれど、誰もが明日への希望を抱き、子どもたちのほちきれそうな笑顔でいっぱいだった暮らしに、今、私は想いをはせています。

懐かしい未来へ。

この“新しい価値観”で、地域社会を再生する時間が、この第5次総合計画の10年です。

市民と市役所が力を合わせ、ぬくもりのある地域社会を築き、郷土愛を育み、笑顔と活気にあふれた暮らしを送り、「このまちに誇りを持ち、満足して暮らす」ということを、市民のみなさんとともに考え、挑戦していきたい。

この理念を胸に、ここに生きる27,000人の留萌市民が、それぞれの幸せに向かって、懸命に生きていくことを望むものです。

留萌市長 高橋 定敏

第5次留萌市総合計画基本構想

目 次

【1章】序 章		
1 - 1 第4次総合計画とこの10年		3
1 - 2 第5次総合計画策定の背景		4
1 - 3 第5次総合計画の特徴		5
1 - 4 第5次総合計画の構成と期間		6
【2章】総 論		
2 - 1 基本テーマ		7
2 - 2 理念と視点		8
(1) まちづくりの2つの理念		8
(2) テーマの背景となる4つのキーワード		8
【3章】各 論		
3 - 1 留萌を彩る6つの基本政策		9
“やる気と活気”の政策	生(もえぎ)	10
“思いやりと安心”の政策	優(さんご)	12
“自然と資源”の政策	地(つるばみ)	14
“暮らしと安全”の政策	守(しろがね)	16
“夢と宝”の政策	宝(こはく)	18
“海と港”の政策	海(るり)	20
3 - 2 働く市役所		22
“対話と信頼”の政策	信(ベーシックカラー)	22
【4章】総合計画の進行管理		
4 - 1 政策マネジメントシステム		24
【5章】策定の仕組みと軌跡		
5 - 1 策定の仕組み		25
5 - 2 策定の軌跡		25
(1) まちづくり市民会議		25
(2) 庁内策定会議		26
(3) パブリックコメント(市民意見の公募)		26
(4) 市民懇談会(町内会と各団体)		26
(5) まちづくり市民講座“なまら亭”		26
(6) 市民生活意識調査、市民満足度アンケート		27
(7) 市議会		28

【1章】序 章

〔1－1〕第4次総合計画とこの10年（平成9年度～平成18年度）

港湾物流拠点都市として栄えてきた留萌市が、まちづくりのテーマとして「ひと・まち、ゆめ・みなと 翔く留萌21」を掲げた第4次総合計画が、平成18年度で終了します。ここでは、この計画期間中に進められた政策展開と行財政運営について振り返ってみます。

政策展開

都市基盤整備の分野では、留萌港、下水道、船場公園、沖見海浜公園の整備などに取り組みました。しかし、一次産業での就業者の高齢化と後継者不足、底曳き船の廃止、水産加工では消費の低迷による生産の落ち込みなどが、産業経済全般と雇用環境に深刻な影響を与えています。地場産業の育成と雇用の確保によって、留萌の経済に、にぎわいと活気を作り出すことが必要です。

市民生活の分野では、まず資源循環型ごみ処理施設「美サイクル館」の建設とごみの減量化や再資源化を推進しました。保健福祉センター「はーとふる」の建設と合わせて五十嵐町公営住宅「リラ」では、高齢者向けの住環境を整備し、健康増進施設として温水プール「ぷるも」の整備を行いました。また、市立病院を移転改築し、「誰もが安心して適切な医療を受けられる」地域センター病院と位置づけたほか、北光中学校の改築、市民活動団体や町内会との「協働」などに取り組みました。

今後は、少子化、人口減少、高齢化に備えるため、市民同士のきずなを深め、相互に支え合えるコミュニティづくり、子どもたちの笑顔が広がる、健康で穏やかな暮らしの実現が必要です。

総体では、市民が安心して留萌に住み続けていくことができる産業や生活の基盤整備に重点を置いた10年でした。

行財政運営

財政運営では、課題となっていた多くの事業を実施し、生活基盤の整備が進んだ反面、その建設費のための負債が大きくふくらんだため、「財政健全化計画」(平成12年度)を策定し、財政の健全化に努めました。

しかし、バブル経済崩壊後、国・地方を通じた財政危機を背景に、留萌市でも市税収入の大幅な減少や地方交付税の大幅な削減などの影響を受けました。そのため歳入・歳出の構造的なギャップが広がり、財政健全化計画の達成が困難となり、「財政再建団体」への転落が危ぶまれたため、新たに「財政再建計画」(平成17年度)を策定し、抜本的な行財政構造の改革による財政再建に取り組むこととしました。

この間、行政改革では、行政需要に即応した事務事業の見直し、市の組織機構の合理化と適

正な定員管理など、行政事務の効率化、簡素化を進め、職員の基本給の独自削減をはじめ各種手当の削減も実施しました。

今後は、組織のスリム化や経費の節減など、徹底した行政システムの見直しはもちろん、市民と行政との役割分担を見つめ直し、「協働」をキーワードとした、スピード感のある改革の実施と持続可能な財政構造の確立が課題です。

計画の進行システム

平成17年夏に、市では第4次総合計画の達成度調査をしました。その結果、「達成・おおむね達成」は約75%でした。ただし、成果指標や数値目標など、客観的な判断基準を設定していないため、この達成度は、市役所の主観的な評価とならざるを得なかったという反省があります。

第5次総合計画では、市の予算、人員、時間などを効率的に配分し、市民満足度の高い行政を進めるためにも、市民の生活や営みの視点から政策・施策を組み立て、成果指標に基づく客観的な評価が可能な計画作りとそれに基づく「都市経営システム（*）の確立が求められます。

（*）「都市経営システム」とは、政策マネジメントシステム（計画・実施・評価・見直しのサイクルで仕事を効果的に進める仕組み）と組織マネジメントシステム（目標の達成に向けて職員が意欲的に仕事をする仕組み）で、市民の満足度の高い行政運営を進める仕組みのこと。（留萌市独自のネーミング）

〔1-2〕第5次総合計画策定の背景 ～自主自立した自治体経営のために～

第4次総合計画を策定した1990年代後半と今日とを比べると、わたしたちの暮らしや営みをめぐる経済社会状況は、大きく変わってきています。

なかでも、地方自治を取り巻く環境は、「中央から地方」「官から民」という流れの中で、事務・権限と財源の移譲など三位一体改革と相まって、自己責任のもとで、いかに「自主自立」した自治体運営を行うかが大きな課題となっています。

また、少子化、人口減少とともに人口構成の高齢化が進むなかで、自然との共生や地域の歴史・文化の継承など、未来に向けて持続可能となるように地域社会を運営することも大きな課題です。

これまで行政機関が担ってきた公共サービスを、市民組織や企業などが行政機関と協働で担う時代になっています。

そうした状況の中で、「市民の福祉の増進」という自治体の使命と「利潤の追求」という企業経営の論理とを融合し、“最少の経費で最大の効果を生み出す”ため、自治体運営に新たな経営の方法論を取り入れる必要があります。

その方法論の軸に総合計画を置き、仕事の成果に視点を当て、評価し、見直しをする。もちろん、財政再建計画や職員の定員適正化などと連動し、行政運営をマネジメントすることで、

「よい仕事　よい結果　市民の幸せ　まちの発展」という連鎖を生み出さなくてはなりません。

そうした新しい行政運営手法の主軸として“新しい役割を担う総合計画”が、今求められています。

〔1－3〕第5次総合計画の特徴　～“ものさし”で仕事の成果を測る～

これまでの市役所の仕事は、“実施する”ことに主眼が置かれていたため、市役所の仕事を“評価する”という発想がありませんでした。

また、仮に評価するにしても、サービスを受ける側（市民）、実施する側（市役所）という各々の観点で評価していたため、市民の評価と市役所の評価に食い違いが生じていました。

例えば、港の整備、温水プールの建設、福祉サービスなど、市役所は「これだけ実施した」「当初の予定どおり建設した」と胸を張っても、市民の側は「でも暮らしぶりは変わっていない」「交差点の見通しが悪い」など不満を訴えます。

第5次総合計画は、そうした課題を解決するため、仕事の成果や効果を、市民も市役所も共通に判断できる“ものさし”（仕事の成果を測る指標）で測り、評価できるような計画にする必要があります。

同時に、成績の伸び具合を見て、仕事の内容を見直していく「政策マネジメントシステム」（P4の*参照）を取り入れなくてはなりません。

今後は、市役所が進める個々の仕事（事業）によって「市民の生活がどれだけよくなったか」「市民の満足をどれだけ高めたか」が重要視されることとなります。つまり、仕事の視点を実績重視から結果重視へ変えるということです。

例えば、経済振興の施策で「商店街ににぎわいが戻ったか」、健康診断や予防の施策で「肥満者が減ったか」という結果が求められるということです。

この「にぎやかさ」「肥満者の数」という“ものさし”で測り、「どこまで」（成果目標）できたかを判断し、仕事の内容を見直していくという仕組みの導入です。

この“ものさし”で結果を評価し、仕事を見直していくという仕組みによって、市役所はより少ない経費で、効果的な手段（仕事）を選び、目標の達成に取り組みます。

これが第5次総合計画の最大の特徴です。

それは、総合計画の役割が仕事の推進役からマネジメント役に変わるということです。

〔1-4〕 第5次総合計画の構成と期間

第5次 留萌市総合計画	基本構想	政策 (10年)
	基本計画	施策 (5年)
	実施計画	事務事業 (毎年度)

基本構想	2007年度から2016年度の10年間 (平成19年度から28年度)
基本計画	前期5年(2007年度～2011年度) 後期5年(2012年度～2016年度)

基本構想 (議決)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合計画の最上位に位置するもので、「テーマ」「理念」「基本政策」というかたちで、市民が描く未来像＝今後進めるべき市政の課題と解決の方向性が示されます。 ・ 政策単位の成果指標と目標が設定されます。 ・ 市議会の議決で決定されます。 * 期間は、おおむね未来を予想できる年月として「10年間」とします。
基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想で描かれた未来像の実現に向けた市役所の基本戦略＝課題の解決に向けた分野別の処方箋です。 ・ 分野別の成果指標と目標が設定されます。 * 社会環境や市民ニーズの変化などにも対応し、ある程度目標達成への実績を踏まえ、適切に見直しができるように、「前期5年」「後期5年」に区分します。
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本計画に沿って、具体的に市役所の仕事を展開する年度ごとのアクションプラン(処方箋に基づく治療、投薬)です。 ・ 毎年度の予算編成、人員配置と連動し、評価を受け、翌年度の内容を見直します。

【2章】総論

*図1 第5次総合計画の体系図

*図2 基本構想と基本計画の関係

〔2-1〕基本テーマ

誇りと満足を目指す みなとまち留萌

このテーマは、次に紹介する2つの理念と4つのキーワードから生まれたものです。

これは、約1年、延べ18回に及ぶまちづくり市民会議の丁寧な議論の末に生まれたものです。

2つの理念は、この計画策定の根底となる“まちづくりの価値観”です。

4つのキーワードは、テーマの背景に隠れていますが、第3章でご紹介する基本政策に埋め込まれた“政策立案の動機”です。

地方自治は、市民の幸せをふくらませること。

そのために、市役所は、生活や経済の基礎を作り、その基礎の上で、毎日の生活を営み、経済を動かすのは、市民一人ひとりの努力のたまものです。

それは、留萌に暮らす市民自身が、市政の主人公として留萌の運営に責任を持ち、自ら汗をかき、「るもいの未来」を創っていくことにほかなりません。

これまでの総合計画は「こんなことを市役所にして欲しい」という市民の要望に対して、「あれもします。これもします」という“市役所のサービスメニュー”というイメージでした。

しかし、この基本構想を読み進めていくと、「こういう留萌を作りたい」という市民の自主的な意思で描いた留萌の未来像が見えてくるはずです。

つまりこの基本構想は、“市民の計画だ”ということがわかんと思います。

この基本構想には、市民の汗と情熱、そして“働く市役所”のがんばりで、「自分で考え、自分の足で歩き、誇りを持って満足して暮らしたい」という市民の願いが込められています。

市では、この視点を、留萌が今後目指すべきまちの将来像としてとらえ、政策展開の原点として考えていきます。

〔2-2〕理念と視点 ～第5次総合計画に込めるわたしたちの願い～

(1) まちづくりの2つの理念

■まちに誇りを持つ

市民全体の共通目標として、留萌で暮らす一人でも多くの市民が、留萌や留萌の暮らしに誇りを持てるようになること。市民の誰もが留萌に愛着を持ち、幸せに暮らせるようになること。それが「誇りの持てるまち」の理想像です。

■市民満足度の向上

市役所に企業経営の発想を取り入れ、能率よく、良質なサービスを市民に提供することで、行政サービスに対する市民（顧客）の満足度を高めるとともに、市民もまちづくりの主人公として、参加と協働により、自らの努力で生活の満足度を高めていくように努めること。それが「市民満足度の向上」の目指す姿です。

(2) テーマの背景となる4つのキーワード

■コンパクトシティの実現

人口減少時代を迎え、わたしたちが毎日の暮らしの中で季節や潤いを感じ、心身ともに健康で豊かに暮らすため、自然と共生し、郊外にゆとりの空間を保ちながら、まちなかの活力やにぎわいを持続できる都市空間（コンパクトシティ）の実現に努めること。

■地域コミュニティの再生

隣近所とのつきあいをはじめ市民相互の日常的なかかわり合い、仕事以外の仲間作りの意識が薄くなっています。それは、都会ばかりでなく留萌も例外ではありません。もう一度、町内会やサークル、ボランティア活動など、個人的な利害を超えた市民相互の日常的なつきあいの大切さを再確認して、思いやりやぬくもりのあるコミュニティを再生すること。

■自然の価値の再認識

海、夕陽、山や川など留萌の恵まれた自然環境全体を見渡して、留萌にしかない豊かさ、自慢できる風景など留萌の価値を市民みんなで守り、共有し、地域のアイデンティティ（一体性）を強めること。

■地産地消の推進

日本海で獲れる魚介類や山々で採れる農作物などの留萌の産物を、市民が自然の恵みと受け止め、積極的に消費することにより、地域経済の掘り起こしや活性化につなげていくこと。

【3章】各 論

〔3－1〕 留萌を彩る6つの基本政策

この基本構想では、テーマの実現に向けて、政策を組み立てる切り口として、“色”で分けるという発想を取り入れました。

これまでは、建設、産業、教育、福祉など市役所の組織編成や既存の事業を前提に政策が分けられてきましたが、こうした方法では、さまざまな分野にまたがり、価値観の多様化した実際の市民生活には対応できなくなっているからです。

例えば、道路の整備でも、主要施設とのネットワーク、車の交通量、除雪、交通安全、高齢者や障がい者、通学する子どもたちへの配慮、植樹、景観などいろいろな要素を考える必要があります。

高齢者福祉でも、医療、通院、介護、家庭生活、健康保険、年金、住宅、いきがいなど老後の生活を安全、安心に暮らすためには総合的なケアが必要です。

そこで発想を180度転換し、サービスを受ける“市民の立場”で、政策を分けることにしました。

政策のタイトルも「福祉」「産業」という“お役所的”な言葉ではなく、「思いやり」「活気」など、市民の気持ちや生活を表す言葉でまとめました。

この基本構想は、「留萌という“キャンバス”に、市民が想像する“るもいの未来図”を、“6つのパレット”で描いたもの」といえます。

〔テーマ〕やる気を応援し、活気あふれる都市空間と新しい地域経済をつくる

■基本政策

やる気と活気

生

■もえぎ萌黄色

■基本政策の意図

まちの機能を見つめなおし、持続可能な都市空間（コンパクトシティ）を作ること、また、明日へ向かう“やる気”を応援し、留萌に適した産業の創出・振興と雇用の増加を生み出し、経済の活性化を図り、経済的に安定した生活や現役世代の人口の定着を願っています。

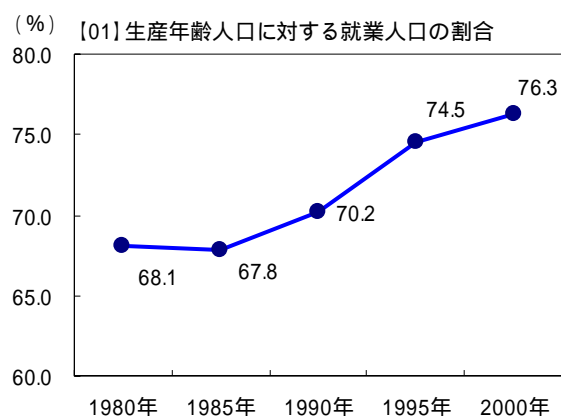
* “生”（もえぎ）には、市民や企業が生き生きと活動、活躍するという意味を込めています。

■成果指標と達成目標

※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成果指標	基準値	目標値
01	生産年齢人口に対する就業人口の割合（％）	76.3	→

- ・ 国勢調査（5年ごとの10月1日に実施）から「有業者数÷生産年齢人口（15～64歳）×100」として算出。基準値は、2000（H12）年の数値。

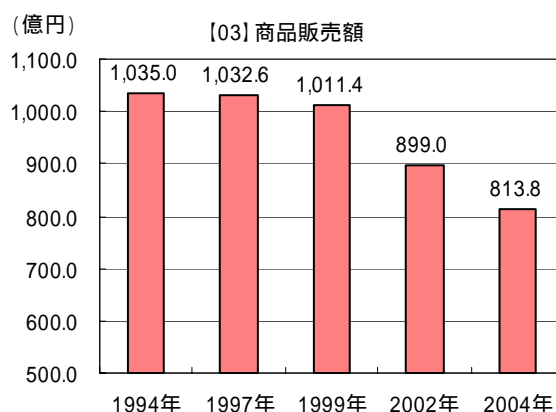
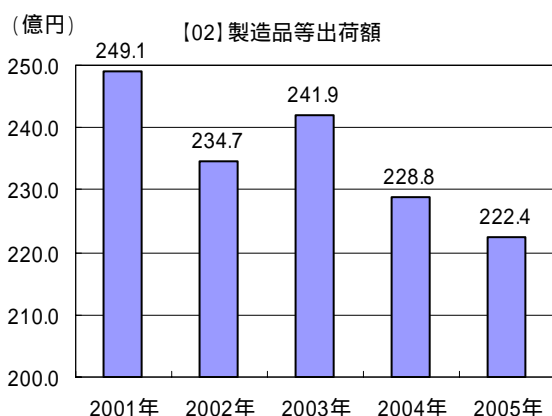


	成果指標	基準値	目標値
02	製造品等出荷額（億円）	235.4	→

- ・ 工業統計調査の製造品等出荷額。基準値は、2001（H13）～2005（H17）年の実績の平均値。

	成果指標	基準値	目標値
03	商品販売額（億円）	813.8	→

- ・ 商業統計調査の商品販売額。基準値は、2004（H16）年の実績値。



(注) 工業統計調査：01、02、04年は4人以上の事業所を調査、03、05年は全数調査

商業統計調査：飲食店を除く

	成果指標	基準値	目標値
04	10年以上留萌に住んでいる市民の割合（％）	69.5％	→

- ・ 市役所市民課「住民基本台帳」から、10月1日現在で「10年以上継続して留萌に住んでいる市民の割合」を算出。基準値は、2006（H18）年の数値。今後は毎年10月1日に算出し比較する。

■基本政策

思いやりと 安心

優

■さんご
珊瑚色

■基本政策の意図

一人はみんなのために、みんなは一人のために、自分のできる役割を果たしながら、地域や人のきずな（地域コミュニティ）を強め、誰もが健康で長生きでき、穏やかに、微笑みや温かみのある暮らしができることを願っています。

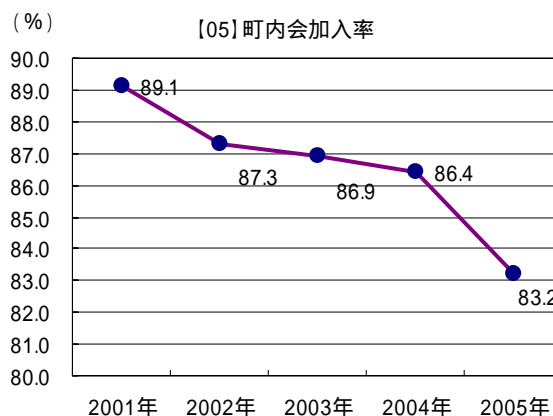
* “優”（さんご）には、市民相互が顔の見える温かいつながりを持ち、「お互いさま」の気持ちを持って、助け合って暮らしていくという意味を込めています。

■ 成果指標と達成目標

※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成果指標	基準値	目標値
05	町内会加入率（％）	83.2	90.0

- ・ 市役所市民サポートグループ調べ。基準値は、2005（H17）年の数値。

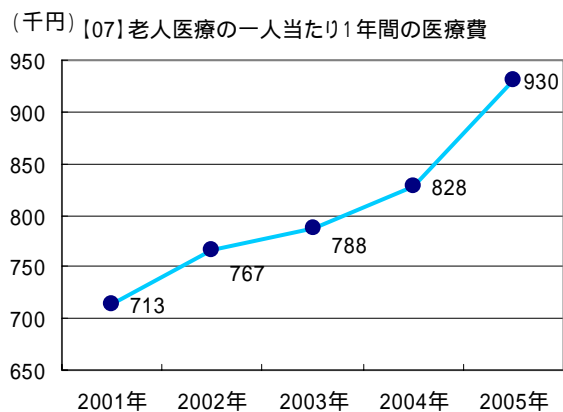
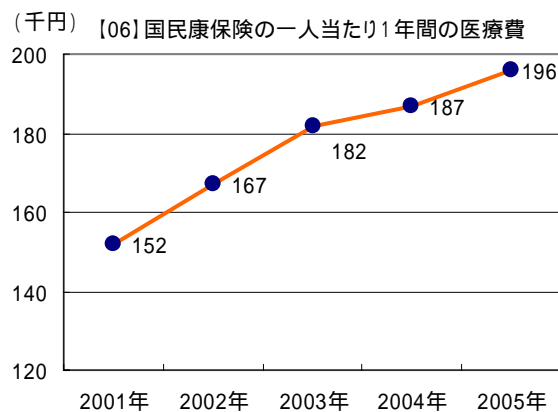


	成果指標	基準値	目標値
06	国民健康保険の一人当たり1年間の医療費（千円）	196	186

- ・ 市役所市民課調べ（国民健康保険事業特別会計）。基準値は、2005（H17）年の実績値。

	成果指標	基準値	目標値
07	老人医療の一人当たり1年間の医療費（千円）	930	883

- ・ 市役所市民課調べ（老人保健事業特別会計）。基準値は、2005（H17）年の実績値。



	成果指標	基準値	目標値
08	地域医療に対する満足度（％）	10.6	60.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

	成果指標	基準値	目標値
09	老後の生活不安度（％）	89.4	40.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

■基本政策

自然と資源

地

■つるばみ色

■基本政策の意図

留萌を取り巻く海と大地を育み、そこから生み出される産物を活かす知恵を出し合い、エネルギーに行動し、提供者（農林漁業者、水産加工業者、商業者など）も消費者（市民）も、その恵みを分かち合える（地産地消の推進）ことを願っています。

また、化石燃料などの消費を抑え、新エネルギーを利活用するなど、地球環境への配慮も忘れてはいけません。

* “地”（つるばみ）には、日本海と山々に囲まれた留萌の地力とそこから生み出される生産力を、生きるエネルギーに変えていくという意味を込めています。

■成果指標と達成目標

※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成果指標	基準値	目標値
10	農業生産高（百万円）	780.0	→

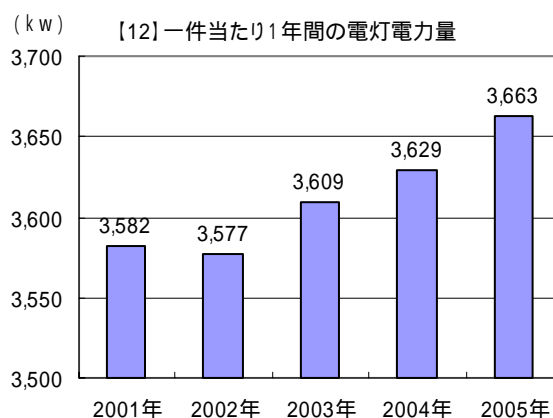
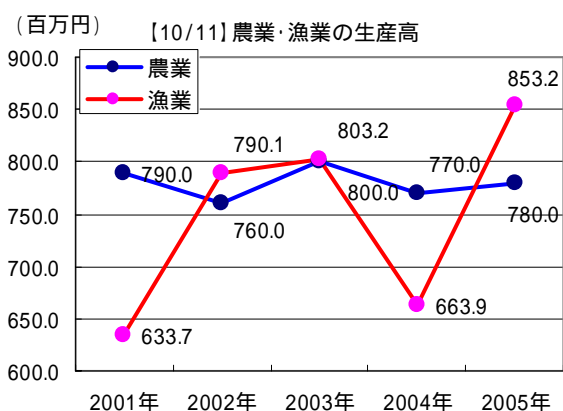
- ・ 農林水産省「農業産出額」、農林水産関係市町村データ（年産）より。基準値は、2001（H13）年～2005（H17）年の実績の平均値。

	成果指標	基準値	目標値
11	漁業生産高（百万円）	748.8	→

- ・ 市役所農林水産課調べ。基準値は、2001（H13）年～2005（H17）年の実績の平均値。

	成果指標	基準値	目標値
12	一件当たり1年間の電灯電力量（kw）	3,612	やや →

- ・ 北海道電力「需要電力の推移」。「電灯」には、一般家庭分と街灯分が含まれる。基準値は、2001（H13）年～2005（H17）年の実績の平均値。



	成果指標	基準値	目標値
13	エネルギーや資源の有効利用や節約をする気持ちのある市民の割合（％）	17.3	65.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

	成果指標	基準値	目標値
14	地元産品であることを意識して商品を選択する市民の割合（％）	51.7	65.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

〔テーマ〕 機能的な生活基盤で、安全で清潔な暮らしを守る

■基本政策

暮らしと安全

守

しるがね
■白金色

■基本政策の意図

積雪寒冷という厳しい自然条件や経済社会生活によって起こるさまざまな災害や事故などから毎日の暮らしを確実に守り、合わせて個々の欲求と地域全体のバランスを図り、安全で安心な生活の向上を願っています。

* “守”(しろがね)には、災害や事故、北海道の厳しい自然条件から、基本的な日々の生活を守るという意味を込めています。

■成果指標と達成目標

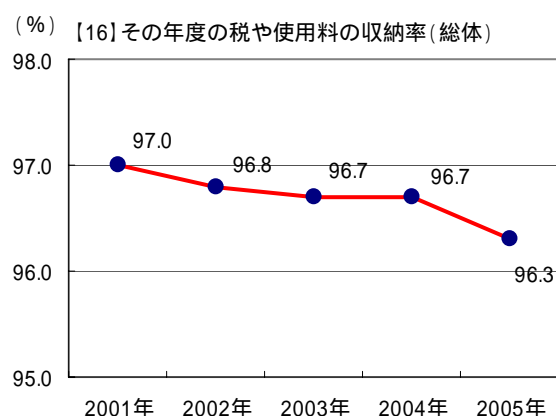
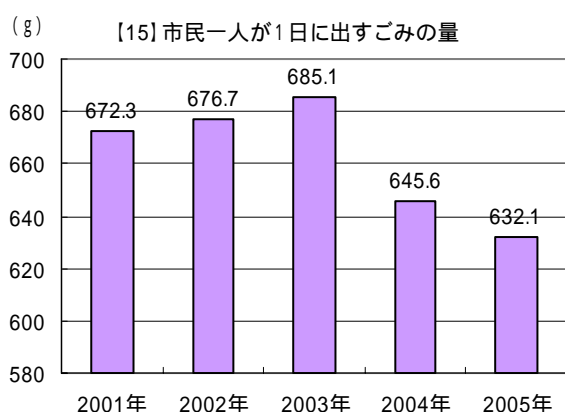
※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成果指標	基準値	目標値
15	市民一人が1日に出すごみの量（g）	632.1	600.0

- 市役所生活環境課調べ。一般家庭から出される全てのごみ（種別問わず）が対象。基準値は、2005（H17）年の実績値。

	成果指標	基準値	目標値
16	その年度の税や住宅使用料、水道料金などの総体の収納率（%）	98.0	98.0

- 市役所（税務課、建築指導課、水道管理課、下水道課）調べ。その年度の市税、市営住宅使用料、上水道使用料、下水道使用料を対象とした総体の収納割合「収入額÷調定額×100」。基準値は、2005年に策定した財政再建計画の目標値を採用。



	成果指標	基準値	目標値
17	普段から災害への備えをしている市民の割合（%）	31.5	60.0

- 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

	成果指標	基準値	目標値
18	除雪満足度（%）	30.1	60.0

- 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

	成果指標	基準値	目標値
19	清潔で安心で、暮らしやすいと感じる市民の割合（%）	31.3	60.0

- 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

■基本政策

夢と宝

宝

こはく
■琥珀色

■基本政策の意図

次代を担う子どもの可能性やこれまで地域社会を支えてきた大人の知恵と経験、生活・文化、歴史・風土、味・楽しみなど留萌のさまざまな“宝”を大切に育て、情報を発信し、人々が行き交うことを願っています。

* “宝”(こはく)には、子ども、大人、生活・文化、特産品、景観などあらゆる地域の資源を「宝」として育てたいという意味を込めています。

■成果指標と達成目標

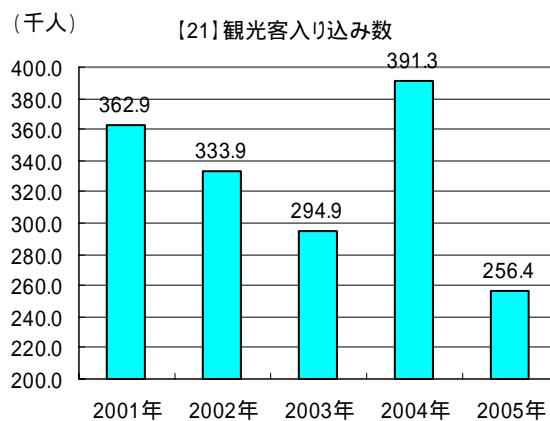
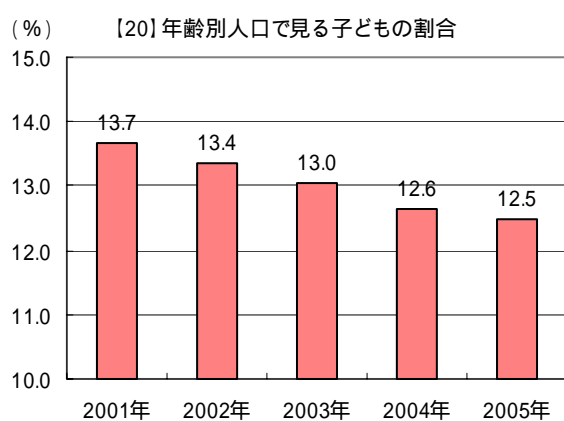
※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成果指標	基準値	目標値
20	年齢別人口で見る子ども（0歳～14歳）の割合（％）	12.5	→

- ・ 市役所市民課「住民基本台帳」による。毎年10月1日現在で、「0～14歳の子どもの人口÷総人口×100」を算出。基準値は、2005（H17）年の実績値。

	成果指標	基準値	目標値
21	観光客入り込み数（千人）	256.4	332.0

- ・ 市役所商工観光課調べ。基準値は、2005（H17）年の実績値。



	成果指標	基準値	目標値
22	留萌の文化や歴史を大切にしたいと思う市民の割合（％）	79.6	90.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

	成果指標	基準値	目標値
23	自ら生涯学習活動（芸術・文化・スポーツなど）に取り組んでいる市民の割合（％）	29.9	65.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

〔テーマ〕 海と港、留萌らしさを未来へつなげる

■基本政策

海と港

海

るり
■瑠璃色

■基本政策の意図

わたしたちのふるさと“留萌”の自然環境や港のことを知り、守り、楽しみ、活かすために、みんなで留萌を語り、愛し、気概を持って未来に伝えていくことを願っています。

* “海”(るり)には、森・川・海つながりを持った留萌の自然環境と、まちとかわりを持ち続けた港の歴史を、留萌らしさのシンボルとして、あらためて認識したいという意味を込めています。

■成果指標と達成目標

※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成 果 指 標	基 準 値	目 標 値
24	留萌港に魅力や親しみを感じる市民の割合（％）	21.6	60.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

	成 果 指 標	基 準 値	目 標 値
25	留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合（％）	62.6	80.0

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

〔3-2〕働く市役所 ～基本政策を支える基～

市役所には、総務、企画、会計、監査などの内部管理の仕事や戸籍管理、選挙管理委員会、税の徴収、財政運営など行政の基礎となる仕事があります。また、広報や広聴、情報公開、個人情報の保護など、市民と市役所を結ぶ仕事もあります。

こうした仕事を、6つの基本政策の土台として、「働く市役所」というテーマでまとめました。

〔テーマ〕市民との対話で働く市役所を目指す

■基本政策

対話と信頼

市役所や教育委員会など、市の実施機関の仕事の進め方、組織運営などの面で効率性、能率性など「生産性を高める」ことを目指し、予算や職員などの経営資源の選択と集中で、“最少の経費で最大の効果を生み出す”ように、職員個々も市役所全体も取り組んでいきます。

信

■ベーシックカラー

■成果指標と達成目標

※目標値は、基本構想最終年度の2016（H28）年度

	成果指標	基準値	目標値
26	財政の健全度 ① 経常収支比率で見る全道ランキング (道内35市中の順位)	29	18
27	財政の健全度 ② 市民一人当たりの地方債残高で見る全道ラ ンキング(道内35市中の順位)	29	18

- ・ 北海道庁市町村課、全道市長会調べ。「経常収支比率」と「市民一人当たりの地方債残高」で、道内都市（35市）における留萌市のランキングから財政運営の健全度合いを見る。基準値は、2005（H17）年度の順位。

経常収支比率で見る全道ランキング（道内 35 市中の順位）

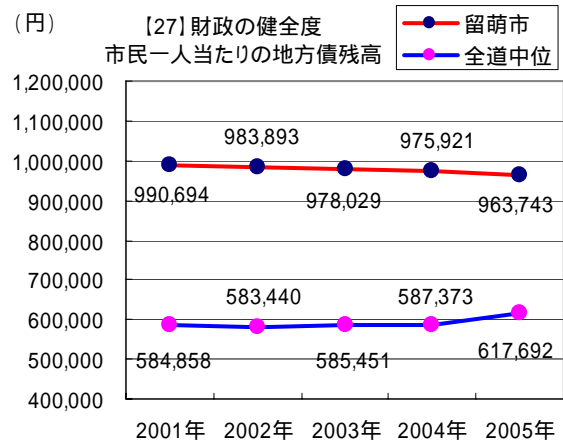
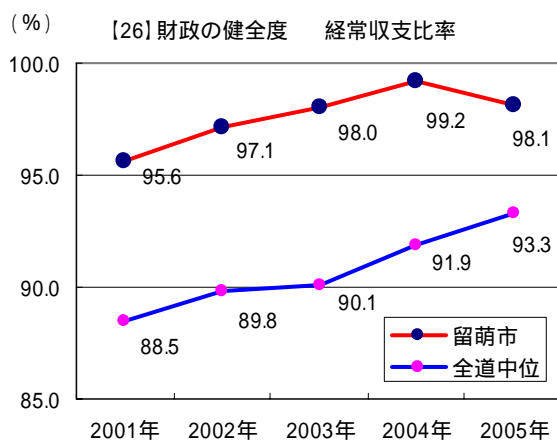
2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年
29 位／34 市	28 位／34 市	29 位／34 市	28 位／34 市	29 位／35 市

「経常収支比率」は、財政の弾力性を表す指標。人件費、扶助費（生活保護費など）、公債費（借金の返済）など、義務的な経費の割合が高くなると、財政が硬直化し、市独自の政策に使える財源に限られる（厳しい財政運営）。逆に、この割合が低くなると、財政運営が柔軟（良好な財政運営）になり、市独自の政策に充てられる予算が多くなる。

市民一人当たりの地方債残高で見る全道ランキング（道内 35 市中の順位）

2001 年	2002 年	2003 年	2004 年	2005 年
29 位／34 市	29 位／34 市	29 位／34 市	29 位／34 市	29 位／35 市

「市民一人当たりの地方債残高」は、市民一人当たりの市の借金の総額。借金は少ないほど財政運営は健全と言えるが、大型の投資事業など借金で経費を調達することも財政運営では避けられないこと。投資事業と借金の返済のバランスの取れた財政運営がポイント。



	成果指標	基準値	目標値
28	職員の信頼度 (%)	19.0	100

- ・ 市民満足度アンケート。基準値は、2006（H18）年調査の数値。今後は毎年実施し比較する。

【4章】総合計画の進行管理

〔4-1〕政策マネジメントシステム

* 図3 PDCAマネジメントサイクルを軸とする都市経営システムの概要

市では、「第5次総合計画の目標を達成する（近づく）ことが、行政の目的の実現に向かう方法」という設計で、仕事を進めるための仕組み「政策マネジメントシステム」を確立します。システムの基盤となるのは「PDCAマネジメントサイクル」です。

このマネジメントサイクルを運転することで、重要施策の“選択”と予算や人員、時間などの経営資源の“最適配分”が可能となり、行政サービスの効率性や効果を高めるなど、市役所の生産性の向上を図り、総合計画の目標達成を目指します。

■PDCAマネジメントサイクル

「P」（Plan＝実施計画）

- ・ 実施計画は、基本計画の成果目標に到達するためのアクションプラン。
- ・ 実施計画は、財政再建計画と整合性を持ち、予算編成と連動します。
- ・ 実施計画策定の段階で、次年度の各事務事業のボリュームが決まり、それに合わせて組織の見直し、定員管理に基づく人員配置が連動していきます。

「D」（Do＝実施計画に基づく事務事業の実施）

- ・ 個々の職員の資質を高め、能力を十分に発揮させ、事務改善などを試み、効率的で、意欲的に仕事に取り組み、組織全体の生産性を高める「組織マネジメントシステム」（目標管理制度など）が、この段階で作動します。
- ・ 総合計画の成果目標に近づくべく、課の目標、個々の職員の目標が設定され、その到達度合いが、仕事の励みや能力の査定へとつながり、人事評価、給与などと連動していきます。

「C」（Check＝事務事業の事後評価）

- ・ 成果目標に合わせ、その事務事業の妥当性、適切性などを評価します。
- ・ 市民の目による評価のあり方も取り込んでいきます。

「A」（Action＝事務事業の見直し：実施計画の修正）

- ・ 企画・財政・人事が三位一体で、各課の「評価調書」を資料に、目標達成に向けた事務事業の見直し（継続、拡大、縮小、休止、廃止など）を検討します。
- ・ この作業が、次年度以降の実施計画策定となっていきます。

【5章】策定の仕組みと軌跡

〔5-1〕策定の仕組み

* 図4 第5次総合計画策定の主な手順

■第5次総合計画策定の主な手順

まちづくり市民会議で基本構想の「市民会議案」を作成。

「市民会議案」を基に、市役所内の策定会議で肉付けし、素案を作成。

同時に、市役所内では、基本計画、実施計画を策定。

市民意見の公募（パブリックコメント）により市民の意見を公募。

市民との懇談会（町内会や各団体）で、さまざまな市民の声を聞き取り。

市民満足度アンケートなどを基に成果目標を設定。

策定会議で成案のまとめ。

市議会に提案し、議会審議を経て決定。

〔5-2〕策定の軌跡

（1）まちづくり市民会議

・開催日程とテーマ

主 な 内 容	日 程
座長・副座長選考、進め方協議	H17年10月11日
未来予想図作成	10月24日、11月7日
第4次総合計画フォローアップ	12月1日、12月15日、H18年1月9日
留萌の将来像について	1月27日
高校生とのトーク、町内会とのトーク	* 2月26日、2月28日
留萌港について	3月7日
総合計画と自治基本条例の関係	4月1日
イメージカラーと政策の分類	4月14日、4月28日
政策のキャッチフレーズ	5月16日
市の仕事と成果指標	6月7日
総合計画の理念とテーマ	6月16日
総合計画の進行管理と基本条例	6月26日
市民会議案の構成	7月22日、8月5日
市民会議案のまとめ	9月2日

・個別意見カード（資料編参照）

(2) 庁内策定会議

・ 構成メンバー

策定会議 市長、助役、教育長、総務部長、生活福祉部長、産業建設部長、教育部長、議会事務局長、病院事務部長、消防長

幹事会 総務課長、政策経営室長、財政課長、総務監、市民課長、市民サポートグループマネージャー、社会福祉課長、都市整備課長、農林水産課長、監査事務局長、学校教育課長、病院総務課長

ワーキンググループ 公募職員 15名

事務局 政策経営室企画調整課 参事、主幹、係員

・ 開催日程とテーマ

策定会議 4回開催 / 中間報告、素案、修正案、達成目標について決定

幹事会 4回開催 / 中間報告、素案、修正案、達成設定について検討

ワーキンググループ 17回開催 / 第5次総合計画のあり方を調査研究、中間報告まとめ、成果指標調査研究、まちづくり市民会議支援、基本計画たたき台まとめ、など

(3) パブリックコメント（市民意見の公募）

・ 期間 平成18年10月2日～10月20日

・ 応募状況 2名、5件

・ 意見・提案（資料編参照）

(4) 市民懇談会（町内会と各団体）

・ 開催回数と参加人数

町内会 6回 / 169名

各団体 8回 / 80名（13団体）

・ 意見・提案（資料編参照）

(5) まちづくり市民講座“なまら亭”

小西教授の“なんとかせなアカンで！”・・・平成17年11月5日

講師 関西学院大学大学院経済学研究科、産業研究所教授 小西 砂千夫 氏

自然と共生する持続可能なまちづくり・・・平成17年11月23日

講師（財）日本生態系協会ランドデザイン総合研究所 副所長 遠藤 立 氏

未来のるもいは、キラキラ満足都市・・・平成18年4月19日

講師（株）ワード研究所 代表取締役 大島 章嘉 氏（日本満足学会事務局長）

映画「県庁の星」・・・平成18年6月29日

留萌映画ファンクラブとの共催

(6) 市民生活意識調査、市民満足度アンケート

市民生活意識調査

目 的	日常生活の満足度、将来への不安、市役所への要望、「6つのキーワード」などについて市民の意識を調べ、総合計画策定の資料とするため実施
調査期間	平成18年3月16日～31日
対 象	16歳以上の市民500名(住民基本台帳から無作為抽出)
回 答 者	195名(回答率39%)

市民満足度アンケート

目 的	基本構想、基本計画の市民満足度、市民意識の現状値を把握するため実施
調査期間	平成18年10月16日～27日
対 象	16歳以上の市民1000名(住民基本台帳から無作為抽出)
回 答 者	358名(回答率36%)

(7) 市議会

議員協議会

- ・ 日程 平成18年10月23日
- ・ 内容 第5次留萌市総合計画基本構想(素案)について内容を説明

平成18年第4回定例会

- ・ 日程 平成18年12月14日
- ・ 内容 原案可決

基本理念 まちに誇りを持つ

私たちは、こういうまちを目指します! 総合計画のテーマ: 誇りと満足を目指す みなとまち留萌

基本理念 市民満足度の向上



留萌を彩る6つの基本政策 (基本構想)

生 やる気と活気

やる気を応援し、
活気あふれる都市空間と
新しい地域経済をつくる

【成果指標】

- 生産年齢人口に対する
就業人口の割合(%)
- 製造品等出荷額(千円)
- 商品販売額(千円)
- 10年以上留萌に住んでいる
市民の割合(%)

優 思いやりと安心

思いやりのコミュニティで、
安心して健康に暮らせる

【成果指標】

- 町内会加入率(%)
- 国民健康保険の一人当たり
医療費(千円)
- 老人医療の一人当たり
医療費(千円)
- 地域医療に対する満足度(%)
- 今の生活の不安度(%)
- 今後の生活の不安度(%)

地 自然と資源

自然の恵みを活かし、
資源を大切にする

【成果指標】

- 農業生産額(千円)
- 漁業漁獲額(千円)
- 1件当たりの電灯電力量(kw)
- エネルギーや資源の有効利用や節約
をする気持ちのある市民の割合(%)
- 地元産品であることを意識して
商品を選択する市民の割合(%)

守 暮らしと安全

機能的な生活基盤で、
安全で清潔な暮らしを守る

【成果指標】

- 市民一人当たりが1日に出す
ごみの総量(g)
- その年度の、税や使用料(住宅・上水道
・下水道)の収納率の総体(%)
- 普段から災害への備えをしている
市民の割合(%)
- 除雪満足度(%)
- 清潔・安心で、暮らしやすいと
感じる市民の割合(%)

宝 夢と宝

人・文化・地域の魅力と
夢を育てる

【成果指標】

- 年齢別人口でみる子ども
(0歳~14歳)の割合(%)
- 観光客入り込み客数(人)
- 留萌の文化や歴史を大切にしたい
と思う市民の割合(%)
- 自ら生涯学習(芸術・文化
スポーツなど)に取り組んでいる
市民の割合(%)

海 海と港

海と港、留萌らしさを
未来へつなげる

【成果指標】

- 留萌港に魅力や親しみを感じる
市民の割合(%)
- 留萌の自然が素晴らしいと思う
市民の割合(%)

「6つの柱」にちりばめられた“4つのキーワード”：コンパクトシティの実現 / 地域コミュニティの再生 / 自然の価値の再認識 / 地産地消の推進

信 対話と信頼 / 市民との対話で働く市役所を目指す

【成果指標】財政の健全度(各種財政指標から総合的に判断) / 職員の信頼度(%)

戦略プログラム (基本計画)

平成19年2月6日現在

地域産業の育成と支援

新産業・起業 / 中小企業 / 雇用・労働 / 地場産品・
水産加工 / 商店街

都市機能の充実

都市計画・再開発・路外駐車場・国土利用法 / 地籍
調査・住居表示・町名及び町界 / 都市景観・屋外広
告物 / 中心市街地 / 道路・橋りょう

地域コミュニティの育成と支援

市民活動 / 男女平等参画 / 審議会・委員会 / 町内
会 / コミュニティセンター・町内会館 / 集会施設

健康の維持と増進

健康・保健予防 / 介護予防

安心できる地域医療の充実

地域医療 / 地域センター病院

地域福祉の充実

地域福祉 / 高齢者 / 障がい者

社会保障の充実

国民健康保険 / 老人医療 / 医療費助成 / 母子・寡婦
・助産 / 年金 / 生活保護 / 介護保険

地産地消と一次産業の推進

農業 / 林業 / 漁業 / 地産地消

エネルギーの有効利用

省エネルギー・新エネルギー

市民生活の基盤づくり

生活環境 / 消費生活 / し尿処理 / 火葬場 / 墓地
上水道 / 下水道 / 浄化槽 / 河川・ダム / 除雪 / 市
営住宅 / 火災・救急救命 / 防犯 / 交通安全 / ごみ・
一般廃棄物

災害に強い地域づくり

防災

税の負担

税・税外収入

子どもの育成と支援

子ども未来・少子化対策 / 保育園 / 幼稚園 / 幼児
療育通園センター / 青少年・健全育成

学校教育の充実

学校施設 / 学校教育 / 学校給食

社会教育の充実

社会教育 / 芸術・文化 / スポーツ / 社会教育施設

魅力の再発見と創造

観光・イベント / 国際交流

郷土文化・歴史の伝承

郷土文化・歴史 / 文化財

自然環境の保護と緑の整備

公園・緑地 / 花・街路樹

港を活かしたまちづくり

留萌港 / 貿易

能率の良い市役所づくり

都市経営 / 地域振興 / 統計調査 / 広域行政 / 財政
人事 / 人材育成 / 財産管理 / 契約 / 車両管理

信頼される市役所づくり

窓口 / 広報広聴 / 請願・陳情・不服申し立て / 情報化

その他の事務

教育委員会 / 選挙管理委員会 / 監査 / 議会 / 会計
平和 / 褒賞 / 表彰 / 恩給 / 公平委員会 / 庁舎管理
秘書 / 住基・戸籍 / その他の事務

※戦略プログラムは、社会環境や市民のニーズの変化により、
内容が改訂されることがあります。

基本構想と基本計画の関係

年齢別人口で見ると子ども(0歳~14歳)の割合(%)

生産年齢人口に対する就業人口の割合(%)

留萌港に魅力や親しみを感じる市民の割合(%)

観光客入り込み数(千人)

製造品等出荷額(億円)

留萌の自然が素晴らしいと思う市民の割合(%)

留萌の文化や歴史を大切にしたいと思う市民の割合(%)

商品販売額(億円)

自ら生涯学習活動(芸術・文化・スポーツなど)に取り組んでいる市民の割合(%)

10年以上留萌に住んでいる市民の割合(%)



町内会加入率(%)

市民一人が1日に出すごみの量(g)

農業生産高(百万円)

国民健康保険の一人当たり1年間の医療費(千円)

その年度の税や住宅使用料、水道料金などの総体の収納率(%)

漁業生産高(百万円)

老人医療の一人当たり1年間の医療費(千円)

普段から災害への備えをしている市民の割合(%)

一件当たり1年間の電灯電力量(kw)

地域医療に対する満足度(%)

除雪満足度(%)

エネルギーや資源の有効利用や節約をする気持ちのある市民の割合(%)

老後の生活不安度(%)

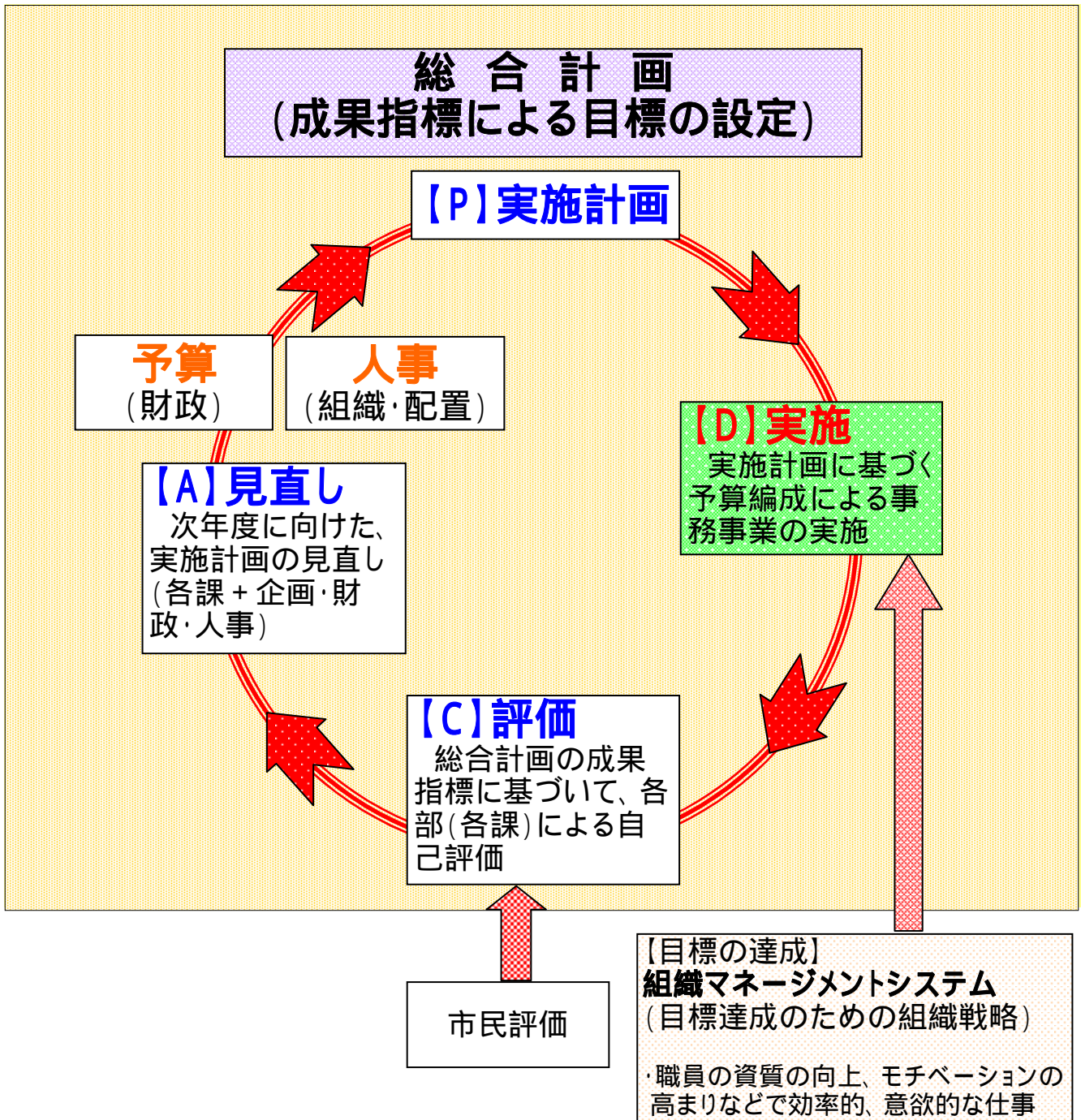
清潔で安心して、暮らしやすいと感じる市民の割合(%)

地元産品であることを意識して商品を選択する市民の割合(%)

図3 PDCAマネージメントサイクルを軸とする都市経営システムの概要

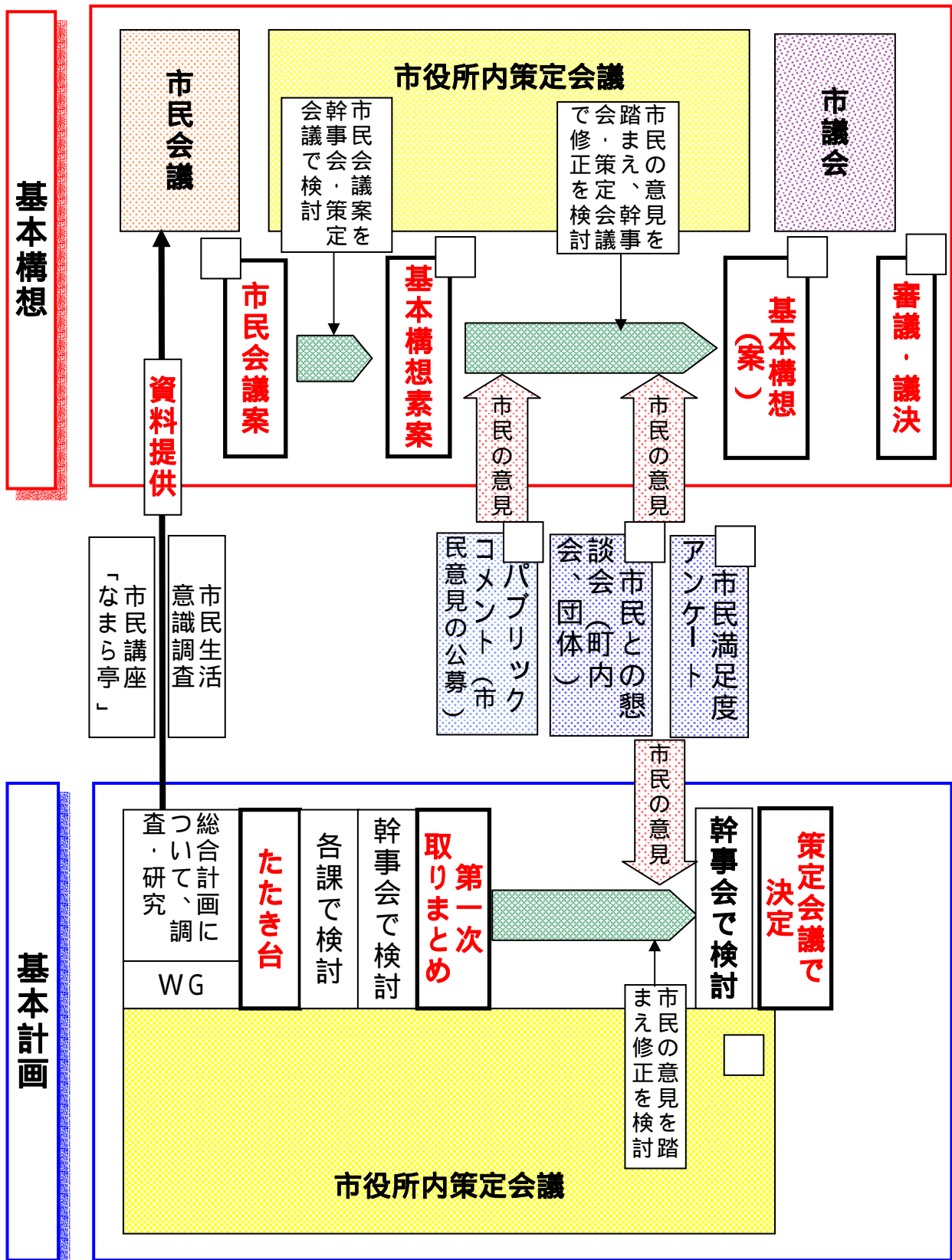
【目標の達成】
政策マネージメントシステム

・PDCAマネージメントサイクルで、
目標達成を目指す



「政策マネージメントシステム」と「組織マネージメントシステム」が機能することで、個人の資質と組織の生産性向上 + いい仕事 = 市民の幸せ(満足感の向上)・留萌の発展

図4 第5次総合計画策定(基本構想・基本計画)の主な手順



策定会議(市長・助役・教育長・各部長)、幹事会(関係課長)、ワーキンググループ(WG:職員公募)

第5次留萌市総合計画—基本構想—

(平成18年12月14日議決)

発行 留 萌 市

編集 留萌市政策経営室企画調整課

〒077-8601 北海道留萌市幸町1丁目11番地

電話 0164-42-1869

電子メール sougoukeikaku@e-rumoi.jp

ホームページ <http://www.e-rumoi.jp/>